

少年消防クラブニュース

一般財団法人
発行/ **日本防火・防災協会**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
(日本消防会館内)
TEL 03(3591)7121 FAX 03(3591)7130
http://www.n-bouka.or.jp
(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

第1回 全国自主防災組織リーダー研修会を開催

平成26年11月27日(木)・28日(金)の2日間にわたり「第1回全国自主防災組織リーダー研修会」を、ルポール麴町にて開催し、全国から約90名の自主防災組織リーダーの方々に参加して開催されました。



第1回全国自主防災組織リーダー研修会

時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が定められたことを機に、その趣旨を実現すべく、今回初めて全国自主防災組織リーダーの皆さんが一堂に会し、組織運営の実態・課題について意見交換する場を設ける等の目的で行われました。この研修会を開催することによって、より一層自主防災組織の防災に関する意識を高め、自発的な防災活動への参加促進や活動の活性化が図られ、自主防災組織の発展につながるものと考えられています。

開会に当たり、当協会秋本敏文会長から「自主防災組織は日本の消防政策の中



挨拶する秋本敏文会長



挨拶される坂本森男消防庁長官

で重要。研修会を開催するきっかけは、昨年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立したこと。地域の皆さんの総力を結集した地域の防災体制が大切だということを経験の中で明確にし、国や地方公共団体が応援する体制を整えることができた。11月22日の長野県北部地震で、死者が一人も出なかったが、地域の方々の力を合わせる事がいかに大事かが明確に示された。との挨拶があり、また

官から「自分の身を近隣の力で守る。被害を最小限にする。それには自主防災の力が不可欠。高齢化が進んでいるが、その中で防災危機管理という時に一番重要なのは、災害弱者の方々の把握である。地域にとって何が被災につながるのかを考える為にも、自主防災組織を全国的に広めていく取り組みを進めて行かなければならないと消防庁も考えている。」との挨拶がありました。引き続き、NHKの山崎登解説主幹から「地域の防災力を高める」と題し、「昼夜を問わず起こる災害にどのように対応すればいいのか。人的被害を最小限に食い止めるにはどうすればいいのか。住宅の耐震化や家具類の転倒・落下を防ぐには。先日起きた長野県北部地震を例に挙げ、被災には地域の防災力が不可欠である。地域で取り組むべき問題は、災害発生の前準備だけでなく、その後の対応にもあるのではないかと。人と人が支えあう新しい形の地域コミュニティを作らなければならぬ。そして地域を知ることが防災の始まりである。自分が住む家がどのような地に建てられているのか、まず知る



澁谷大司さん



田村剛一さん



講演される山崎登NHK解説主幹

ことが重要。」との講演が行われました。

(3面に続く)

少年消防クラブ全国交流大会の開催について

- 日時:** 平成27年8月5日(水)午後～7日(金)正午を予定
- 場所:** 徳島県
- 対象:** 50クラブ程度とし、全国から募集します。
(1クラブ当たりの参加者は「7名」を上限とし、小学5年生から中学3年生までのクラブ員5名又は6名、指導者1名とする。)
- 内容:** ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考としたクラブ対抗合同訓練、野外炊出し訓練、避難所体験、クラブ活動紹介等を予定
- 経費負担:** 次の経費は主催者が負担します。
①参加クラブの所在地(消防本部又は学校所在地等)の最寄駅から開催地まで、公共交通機関を利用した場合における往復の交通費の1/2に相当する額(原則として、片道分のチケットの支給をもって代えます。)
②現地での滞在(宿泊)及び移動に係る経費
- その他:** 平成24年度(岩手県)及び平成25年度(徳島県)で開催した交流会の様子について、<http://www.n-bouka.or.jp/club/> から御覧いただけます。その他、詳細については、日本防火・防災協会までお問い合わせください。

第20回 ヨーロッパ青少年消防オリンピックへの派遣について



- 派遣先:** ポーランド国、オポーレ市
- 派遣期間:** 平成27年7月18日(土)出発、28日(火)帰国
(正確な現地日程の決定に伴い変更があり得ます。)
- 派遣対象者:**
 - 少年消防クラブ 4チーム 合計24名
 - 1チームにつきクラブ員5名、指導者1名 計6名
 - 少年消防クラブに在籍する中学生及び高校1年生を対象とします。(高校1年生についてはOBを含みます。)
 - CTIFにおいて、参加資格に変更があった場合にはお知らせします。
- 経費負担:** 派遣費用は、日本消防協会が負担しますが、一人30,000円のご負担をお願いします。
- その他:** 派遣選手団の事前研修等を1か月前の土曜日及び日曜日に行う予定です。

青少年消防オリンピックの概要は次のとおりです。

- 主催は、CTIF(ヨーロッパ中心の国際消防組織)
- 2年に1回開催、今回で20回目
- 1チーム10名、年齢12歳から16歳、各国2チーム以内
- 20数か国から、約600名が参加見込
- オリンピックでは、消防の実技を取り入れた障害物競走、各国交流イベント等を実施



「地域を守る消防防災展・消防団の交流物産展」の開催



平成26年11月8日(土)、東京臨海広域防災公園草地区場で、第24回全国消防操法大会と併せて「地域を守る消防防災展・消防団の交流物産展」が開催され、全国から集まった消防団関係者

のほか、子供を含む一般住民の方々のご来場をいただき、操法大会と合わせて約1万1千人が来場されました。

これは、大規模地震等への対応強化を図るため、昨年成立の消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律を受けて改正された消防団の新たな装備の基準に基づく装備や、地域住民の皆さんの地域防災力の充実強化に役立つ資機材等を広く消防防災関係者や一般国民に対して展示し、



当日は、防災展26団体(各防災関連企業)と物産展9団体(関東圏消防防災関係者)のご出展をいただき、女性(婦人)防火クラブ員の皆様による炊き出し訓練や山形県消防協会のご尽力によりご出演いただいた山形市消防団の皆様による力強い餅つきにより会場が大いに盛り上がり、公益財団法人消防育英会への募金も呼び掛けられました。

地域防災力の充実強化に心を高め、これを強く推進することを目的として開催したものです。

女性消防団員の活動内容、活動環境などについて各国から発表があり、また、会場内を含めて意見交換が行われ、各国の皆さんも、国内の皆さんも最後まで興味深く聞かれていました。

女性消防団国際会議が平成26年9月29日(月)、東京都千代田区の都市センターホテルで、世界8か国及び国内各地の消防関係者など多数の方々参加のもと開催され、パネルディスカッション等が行われました。

女性消防団国際会議

2014年9月29日

女性消防団員の活動は各国とも活発化しています。それぞれの国の考え方、事情がありますから、単純に外国の例を取り入れるなどということには勿論なりませんが、日本にとっても今後の運営上、参考になる点が色々あったと思います。

女性消防団員の活動は各国とも活発化しています。それぞれの国の考え方、事情がありますから、単純に外国の例を取り入れるなどということには勿論なりませんが、日本にとっても今後の運営上、参考になる点が色々あったと思います。

女性消防団員の活動は各国とも活発化しています。それぞれの国の考え方、事情がありますから、単純に外国の例を取り入れるなどということには勿論なりませんが、日本にとっても今後の運営上、参考になる点が色々あったと思います。

女性消防団員の活動は各国とも活発化しています。それぞれの国の考え方、事情がありますから、単純に外国の例を取り入れるなどということには勿論なりませんが、日本にとっても今後の運営上、参考になる点が色々あったと思います。

平成26年9月11日(木)東京都港区のニッショーホールにおいて安倍晋三内閣総理大臣、高市早苗総務大臣をはじめとする多くのご来賓並びに全国消防関係者のご参列のもと、「第33回全国消防殉職者慰霊祭」が行われました。

平成26年9月11日(木)東京都港区のニッショーホールにおいて安倍晋三内閣総理大臣、高市早苗総務大臣をはじめとする多くのご来賓並びに全国消防関係者のご参列のもと、「第33回全国消防殉職者慰霊祭」が行われました。

平成26年9月11日(木)東京都港区のニッショーホールにおいて安倍晋三内閣総理大臣、高市早苗総務大臣をはじめとする多くのご来賓並びに全国消防関係者のご参列のもと、「第33回全国消防殉職者慰霊祭」が行われました。

平成26年9月11日(木)東京都港区のニッショーホールにおいて安倍晋三内閣総理大臣、高市早苗総務大臣をはじめとする多くのご来賓並びに全国消防関係者のご参列のもと、「第33回全国消防殉職者慰霊祭」が行われました。



主催した公益財団法人日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭を行っており、今回は、3柱の御霊が新たに合祀され、明治時代からの

慰霊祭では、約700人の参列者が御霊に黙とうを捧げ、秋本敏文会長の式辞につづき、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣、ご遺族代表から「追悼のことは」をい

た。そして、最後に各国の参加者により、これからの活動などについて決意を示す大会アピールが採択されました。

皆様による献花が行われ、厳粛のなか、御霊の安ら

なるご冥福をお祈りいたしました。

秋本会長は、式辞で最近の災害状況を踏まえ、「消防がその使命を達成するためには、消防団員職員が自らの安全を確保しながら必要な活動を続けることができればなりません。私たちはこれらから、安全確保のために最善の努力をすることをお誓いいたします。」と述べ、安全な消防使命達成をめざす誓いを行いました。

女性消防団国際会議アピール
2014年9月29日

- 1 火災はもちろん、さまざまな自然災害、テロ事件などへの消防の対応において、女性は、家族を守り、地域での安全を確保するため、これからも一層の活躍をします。
- 2 女性は、女性の特性をいかして、男性とは異なる活動も行う、消防の活動をさらに充実させます。
- 3 女性の活動を一段と発展させるため、これからも各国が連携し、活動環境の改善を進めます。

第33回 全国消防殉職者慰霊祭

安倍内閣総理大臣ご臨席のもと厳粛に開催

第14回全国中学生 「防火防災に関する」 作文コンクール

結果発表

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中学生を対象とした「防火防災に関する」作文コンクールを行っています。

各都道府県の支部から、「地域を守る消防団」を作文のテーマとし、選ばれた作品73点の中から、共済会において厳正なる審査を行った結果、最優秀賞には

兵庫県多可町立加美中学校 3年 谷尾 慧奈さんの作品が選ばれました。佳作以上の作品は、「防火防災に関する」作文コンクール入賞作品集にして、全国の消防機関等へ配布されています。



最優秀賞

ありがとう消防団

兵庫県多可町立加美中学校 3年 谷尾 慧奈

あの災害から三年…。私は思いもよらぬ体験をしました。

私の家族は父、母、祖母、弟そして私の五大家族です。当時父は地元の消防団に入っていました。平成23年9月、台風12号が日本を襲いました。私の住んでいる地域でもだんだんと雨が強くなり、父は「集落内の見回りに行ってくるわ。」と消防団へと行ってしまいました。時間が経つにつれて強くなる雨が、無事に帰ってくることを願いました。私はその夜自分の部屋で、台風による雨音に不安を感じつつもいつものようにベッドで眠りにつきました。夜12時前頃のことです。

「慧奈！起きて！ここにおいたら危ないから逃げるで！」

母が私を起こしました。急に起こされ何が起きているかも分からないまま、母と弟と祖母と私は車に乗り込みました。外は、もの

すごい雨の音と近くの川で大きな石が転がる音が聞こえてきました。車から見える道路はまるで川のようになり、脇には山から流れてきた土砂や木がいっぱいでした。それから私の目に飛び込んできたのは、雨の中でヘルメットやカッパ、長靴を身に付けた男の人たちの姿です。このときすぐにこの人たちは消防団の方々だと分かりました。避難所に着いた私は自主避難だったということを知りました。私はそんなに危なかったのだからか、まだ避難勧告さえ出していないのになぜだろうと思いました。その日は自主避難所で一夜を過ごしました。

家に帰った後、私は父に詳しいことを聞きました。話を聞いていいる中で一番印象を受けたことは消防団の方々の力です。私たちが自主避難をした理由。それは、公会堂の横のえん堤から土石流が道路へ流れ込みそうになり、その道が寸断されれば孤立状態になってしまう可能性があったため、区長さんと消防団の方々の判断で自主避難するように集落放送とサイレンで村の皆さんに呼びかけをされたそうです。なかには自分で避難できない高齢者の方がおられたので消防団の方が大切な命を守るために、寝ておられるところを起こしに行かれたそうです。しかし夜中で雨音が激しく聞こえなく、ガラスを割って家の中へ入られたそうです。そしてその後、おばあちゃんも消防団の方に連れられて私たちと同じ自主避難所に避難されました。他には台風が通りすぎた後も秋雨前線の影響で水と土砂が出ていた集落へ戻り、夜を徹して土木業者の方と一緒に車を通れるように土砂の撤去をされました。この話を聞いて、消防団の方々の村の役員の方々の勇敢な姿と判断が村を守る大きな力になっていたんだなと思いました。消防団の方々がおられなければ私たちが住んでいる集落はどうなっていたでしょう。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私も地域の防災訓練などにも積極的に参加しようと思います。

最優秀賞 (1名)

兵庫県	多可町立加美中学校	3年	谷尾 慧奈さん
-----	-----------	----	---------

優秀賞 (3名)

鳥取県	大山町立大山中学校	1年	椎木 大成さん
福岡県	太宰府市立太宰府東中学校	3年	嶋田 雄太さん
鹿児島県	阿久根市立大川中学校	3年	植松 蓮子さん

佳作 (6名)

宮城県	登米市立中田中学校	2年	渡邊 ちなみさん
富山県	高岡市立伏木中学校	2年	早木 美流さん
三重県	伊賀市立緑ヶ丘中学校	2年	松森 日菜さん
広島県	広島市立長束中学校	3年	水野 佳乃さん
広島県	広島市立安佐北中学校	2年	藤井 美夢さん
鹿児島県	長島町立獅子島中学校	1年	竹口 そらさん

平成26年度 防火ポスター コンクール

結果発表

生活協同組合全日本消防人共済会では、小学校4年生以上から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを毎年行っています。

今年度も各都道府県の支部から選出された作品の中から、第一次審査及び第二次審査を行い厳正なる審査の結果、最優秀作品に埼玉県熊谷市立別府小学校5

年、志賀友里乃さんの作品が選ばれました。最優秀作品については平成26年度全国統一防火標語「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」を掲載し、平成26年11月9日から行われた秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布されました。



平成26年度 防火ポスター
埼玉県 熊谷市立別府小学校 5年
志賀 友里乃さん

最優秀賞 (1名)

埼玉県	熊谷市立別府小学校	5年	志賀 友里乃さん
-----	-----------	----	----------

優秀賞 (2名)

岐阜県	大垣市立北中学校	3年	竹中 円香さん
愛媛県	西予市立土居小学校	6年	武田 未結さん

佳作 (9名)

北海道	池田町立池田中学校	3年	上田 萌夏さん
岩手県	北上市立笠松小学校	6年	小原 千有さん
岩手県	盛岡市立河南中学校	2年	内村 来海さん
宮城県	名取市立増田西小学校	5年	伊藤 凜さん
埼玉県	北本市立北本中学校	3年	稲村 陽菜さん
京都府	宇治市原町立維孝館中学校	1年	藤田 桃歌さん
鳥取県	倉吉市立東中学校	1年	田中 沙季さん
愛媛県	久万高原町立畑野川小学校	4年	岡本 大知さん
福岡県	築上町立築城中学校	3年	黒木 琴音さん



グループ討議の状況

二日目は、出席者代表2名から自主防災組織の活動報告がなされた後、グループに分かれて各自防災組織の活動内容や問題点などが討議されました。



福井武夫国際規格対策官



河合宏一地域防災室長

(1面から続き)
であったか」などについてお話をいただきました。さらに総務省消防庁地域防災室河合宏一室長による「地域防災力の充実強化への取り組み」、「総務省消防庁予防課福井武夫国際規格対策官による「住宅防火対策」の講演が行われました。

少年消防クラブの活動

西東京消防少年団

高齢者施設を慰問

東京都

西東京消防少年団(下田一男団長)は、敬老の日

にちなんで、管内にある老人ホーム「アミーユレジデンス西東京」(西東京市中原町)を訪問しました。

はじめに、小学生による包帯法をお見せしました。

毎月の活動で訓練に励んだ成果を発揮し、額と腕の傷の手当てと、骨折した時に腕をつるす包帯法を全団員

がしっかりと披露することができました。次に中学生



西東京消防署

団員によるAEDを使用した心肺蘇生法をお見せした



ところ、「難しいのに、て

きばきと出来て立派だね。」と、入居者の皆さんから感心の拍手をいただきました。

その後は、皆で一緒に「故郷」や「幸せなら手をたたこう」を歌いました。「幸せなら肩たたこう♪」

と歌いながら、団員が入居者の方の肩をトントンと叩くと、お互い笑顔になって、打ち解けた雰囲気になりました。歌の後は、折り紙やあやとり、風船ゲーム等を楽しみながら楽しい時間を過ごしました。最初は緊張して無口になる団員もいましたが、時間が経つにつれ、笑顔があふれるようになり、お年寄りの皆さんもとても楽しんでる様子でした。

最後に、団員が心をこめて書いたメッセージカードをプレゼントし、「季節の変わり目に体調をくずさないよう、元気にお過ごしください」と挨拶をしたところ、涙を流して喜んでくださる方もいらっしゃいました。

埼玉県

吉川松伏少年消防クラブ

消防署で宿泊研修を実施

吉川松伏消防組合消防本部

吉川松伏少年消防クラブは、平成26年8月1日・2

日に消防署にて宿泊研修を実施しました。各個人が必要とする



る一日分の水分量を計測し、災害に備える水分量を確認するとともに、可搬ポンプを用いてホース延長から放水までの一連の流れを実施し、実践的な消火活動を体験しました。また、水の事故に対し「自分の身は自分で守る」ことを目的と

し着衣泳訓練を実施しました。大規模災害時における避難所での生活と同様な空間スペースに段ボールを使用したの寝床作り、クラブ員達は生活の不便さや最低限必要なものは何かを身をもって体験しました。



宝くじは、みなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、いろいろなかたちで、みなさまの暮らしに役立てられています。

一般財団法人 日本宝くじ協会 <http://jla-takarakuji.or.jp/>